

バイリンガル児（日英両語同時習得）のコードの 切り替えに関する縦断的実証研究

——二語発話（2～3歳）における同義語の分析（1）——

奥 田 久 子

（受付 1998年5月20日）

1. はじめに

1.1 研究の背景

国際化の趨勢に伴い日本在住の外国人家族の子供、海外在住の日本人児童生徒、早期英語教育を望む児童・家族の数はいずれも急増している。もはや、日本でもバイリンガル研究は避けて通れない課題である。幼児期に日本語を第一言語（母語）として習得する場合の研究には、例えば、野地潤家『幼児期言語生活の実態（I～IV）』などがあるが、バイリンガル児の言語習得・中間言語能力及び、身心への影響に関する学問的な解明は日本では殆どなされていない。従って、バイリンガル、早期英語教育等の言葉がマスメディアでも盛んに見聞され、多くの育児者や教育者の関心事でありながら、その分野での理論的な根拠を提供し得る研究・文献は著しく限られている。国内のみならず、海外からも、日本での研究とその知見の提供が期待されている。

本研究は、文部省科学研究費（平成9年度補助金一般研究（C）萌芽的研究（課題番号09878048））の助成を受けた。なお、語形変化が現れる3歳時以降の文法的な文の生成が可能になる4歳時までのコードの切り替えに関する研究は、文部省科学研究費（平成10年度補助金複合領域萌芽的研究（課題番号09878048））の助成のもとに継続して行う。研究に当っては、Colin Baker教授及び、George M. Landon博士に指導をいただいた。ここで改めて厚く御礼申し上げたい。当研究について、The University of Colorado at Boulderで開催された国際学会（1996）で発表し、Institute of International Education in London（1997）で講演を行った。

そうした背景を踏まえ、著者は、同時バイリンガル (Simultaneous Bilingualism) のケーススタディーとして日英両言語同時習得児 (以後Tと呼ぶ) の言語発達の全体像を明らかにする縦断的実証研究を行ってきた。本研究は、その一環として行ったものである。

1.2 コードの切り替え及び言語の識別能力

Volterra & Taeschner (1978) に代表される単一言語システム説では、同時バイリンガル児は、文法的な文の生成が可能になる4歳頃になって初めて、一言語につき一言語のシステムを有するようになるのだが、それまでは、入力された言語情報は一つの言語システムの中に混在することになるとする。二つの言語のミックス率は成長と共に減少するが、その率は一語発話期が一番高く、しかも、両言語の識別能力を裏づける同義語は産出されていないとして、それらを単一言語システム説の科学的な根拠とする。従って、この説 (Volterra & Taeschner, 1978, p. 312) に沿えば、言語を識別する能力が身につけていない4歳頃までに外国語を導入すれば、いわゆる、言語的な混乱状態を引き起こしかねないということになる。換言すれば、第二言語の導入・学習は、母語への悪影響を避けるために、母語の言語能力の確立を待って始めるべきであるとする立場をサポートすることになる。第二言語の習得やバイリンガリズムに強い関心が寄せられる一方で、否定的な考えも今だに根強く残っている。例えば、日本語がしっかりしないうちに外国語を習わせると、日本語がおかしくなる、性格が暗くなる、友達ができなくなる、学力ばかりか知性の成長をも阻むことになるといったものである。そうした懸念は、日本のみならず、バイリンガル研究・教育の盛んな欧米においても時として浮上する。それは、子供の言語の発達になんらかの支障が認められる場合に、往々にして起こる。それをよく物語る例として、最近電子メールで関係者に寄せられた文面の一部分を次に掲げる。

奥田：バイリンガル児（日英両語同時習得）のコードの切り替えに関する縦断的実証研究

(ncbe_roundtable@cis.ncbe.gwu.edu.) (10.1997) “A five-year old boy, bilingual in Spanish and English, stutters and mixes languages within one sentence. He attends a bilingual school since he was three years old. Mother speaks to him in English and Father speaks to him in Spanish. He lives in Spain within a Spanish social setting. I would be very grateful if anyone could recommend recent research and books about the possible cause of unsuccessful bilingualism.”

これは、3歳時からスペイン語（父親）と英語（母親）でスペインで育てられている5歳になる男児が、どもったり、同一文の中で両言語をミックスすることを心配した育児者からの相談である。どもるのは、バイリンガル育児に起因するものであり、両言語のミックスを言語的な失敗と見なし心配している様子が分かる。これに対して、どもりの症状は、バイリンガルの環境により引き起こされたものではない、という考えの他に、十分なリテラシー面での手助けやスピーチセラピストとの相談・治療の必要性を示唆する意見が、主に米国から数多く寄せられた。コードの切り替えに関しても、それは失敗ではなく、むしろ、二つの言語の能力を示すものであるという見解が大半を占めた。しかし、それらの科学的な根拠の究明は、依然、今後の課題として期待されるところが大きい。

前回の研究（奥田，1997）では、同時バイリンガル児（T）の一語発話期のコードの切り替えに注目した結果、日英両言語にまたがる同義語が、日常生活を通して数多く（約70数種）検出された。しかも、同義語は、喃語期を過ぎて言葉らしい言葉が発話されるようになった時点（0;8.9）から既に産出されており、年齢とともに言語の習得力が増し、発話の量が増加するにつれて、同義語も多彩になっていることが分かった。また、同義語は無秩序に産出されるのではなく、相手が誰かによって巧みに使い分けがなされていることも明らかになった。この研究は、同時バイリンガル児の言語の「混乱説」とは反対の肯定的な結果を示すものである。単一言語シス

テム説では、3歳時を言語発達の第二段階と見なし、その特徴として、語彙をミックスする率が前段階よりも減少し、語形を変化させることが出来るようになり、言語の違いを本人が意識するきざしが認められるようになるが、言語システムは、依然として一つであるとする。本研究では、特に、2～3歳時までの同義語の分析を行い、一語発話期に引き続き日本語と英語の識別能力の発達の様子を明らかにしていく。また、同義語の分析過程において、コードの切り替えの機能・目的の特徴については、必然的に見えてくるが、詳しい分析は次回に譲りたい。

1.3 研究対象者

本研究の対象者Tは、日本語(母語)と英語(第二言語)を同時に習得するバイリンガルとして育てられてきた。Tに対する家庭内での言語入力は、幼児期からの一親一言語(One-parent/one-language input)の試みにより、Tの両言語への接触を可能とした。入力言語の役割分担は、基本的には、父親(D)が日本語、母親(M)が英語としたが、両者の母語は日本語であり、両者とも英語は外国語としての習得者(継続バイリンガル)である。Tは、成長過程において英語圏(米国、カナダ、英国)で短期間(1～6カ月)ずつ過ごす機会を得たが、それは4歳以降のことである。従って、本研究対象の3歳までの居住は日本であり、Tを取り巻く社会の言語は日本語のみである。なお、週日(月曜日～土曜日)は保育園(およそ午前9時から午後5時)に通っていたため、英語の入力はMと過ごす朝晩及び週末に限られていた。保育園で過ごす時間は長いが、一語発話期は、眠っている時間が主で日本語の入力時間はごく僅かであった。二語発話期の昼寝の平均は約二時間で、園児と遊ぶ時間が急増している。

1.4 研究資料

同義語をTの発話から抽出するために使用した資料は、前回の研究(奥田, 1997)に後続する年齢時(2;0.1～2;11.9)までに収集したものであ

奥田：バイリンガル児（日英両語同時習得）のコードの切り替えに関する縦断的実証研究。分析に必要なデータは、以下の資料から抽出した。①日常生活の中でTが話している機会をできるだけ多く捉え録音したカセットテープ（60分5本，70分1本，90分2本，120分3本，合計910分），②Tの発話の多い食事時と入浴時の8ミリビデオの録画テープ（合計120分），③毎日Tの身心や言語の発達の様子を詳しくM（母親）が記録した育児日誌，④毎日Tが通った保育園の保育によりTの様子がほぼ毎日記録されている連絡帳。録音テープは，全てを丹念に文字化をしたが，それに際しては，日本語の部分は筆者を含め日本語の母語話者3人が，英語の部分は筆者の他に英語の母語話者2人が行った。この時期の発話は，個々の言葉は一語発話期に比べかなりははっきりしてきてはいるが，長文は明瞭ではない。したがって，データの正確度を高めるために，必要な箇所の発話は数十回も繰り返し聴き，書き取る他に，第三者や専門家による確認作業を必要とした。

2. 2～3歳時の同義語及び言語の識別能力

2.1 資料の項に掲げた同義語の中から数例を取り上げ，その産出された状況も合わせ記述しながら，言語の識別能力を物語る事項について以下に要約する。

(1) 資料を見て明らかなのは，非常に多くの同義語が産出されているということである。これは，3歳時までは同義語が使用されない，とする説を覆すのに十分な証拠であると考えられる。

(2) 同義語や日英両語が使われる状況，相手などに注目してみると，言語の識別能力をバイリンガル児Tが十分に有しており，両言語を巧みに使用しながらコミュニケーションを確立しその意図を達成しようとしている様子が分かる。(2.3参照)。

(3) 2歳半（(2;6.8)参照）頃になると，保育園での体験（園児との遊び）が豊富になり日本語が急激に伸びている。Mも日本語が話せるということを知っているTは，Mに対しても日本語で応答する率が増えている。特に，Dも同席している時にその傾向が強い。しかし，日本語が優勢の時期にも，Mと二人だけで英語の本を読みながら英語だけで過ごしている時

には、英語を使用し、それに引きずられるかのように、後続の一人遊びの間での独り言も英語になることが多い (3.3.2. 参照)。

(4) 絵本は両言語で読み聞かせた場合、その本を以後、日本語で読んでもらいたいのか英語で読んでもらいたいのかをはっきりMに伝える。そして、英語での本読みの時には英語で、日本語での本読みの時には、日本語で答えている ((2.2.2.) 参照)。英語の本読みに没頭している時は、Tの英語の長文の産出が多くなる。

(5) 話相手の話せる言語をTが察知していることを感じさせられる機会は多いが、特に、英語の母語話者の訪問時に、そのことが顕著であった。訪問者が欧米人で英語で話し始めても、Dとの会話で日本語でやり取りをするのを聞くと、Tも日本語に切り替え、日本語で応対している (Cとのやりとり (3.の29.を参照))。

(6) 保母の前でTが英語を使ったことが一度ある。数字は保母も英語で数えることができるので、保母とためらわずに、Tは英語で数を数えた。しかし、それ以外は、保母が英語で、ある言葉をどのように言うのかをTに質問しても答えない。保育園でTが一人遊び中、独り言で英語を口にしたのを保母が二度ほど耳にしているが、常日頃、全く英語を話していない。

(7) 同年齢の女の子Sとその一歳年上のJ姉妹 (後出参照) とよく遊んだが、Tはその二人とはもちろんのこと、その姉妹のいる所では、Tだけに時々話し掛けるMに対しても日本語のみで答えている。Mの研究室でTがその姉妹と遊んだ2時間の間に、一度だけTが英語を使ったことがある。それは姉妹だけで何かに夢中になっていたために、Tに二人の注意を向けるためのものであった (“My” の項 (奥田, 1997) を参照)。

2.2 次に、Tが日本語と英語の違いを意識していることを言葉で表現している例を掲げる。

(一語発話期の2例。① (1; 4.4) D: 本読んでごらん。M: Will you read it to us? T: 「エ」ーゴコ「イコイ」(英語で読む? これ。) ② (1; 6.5)

奥田：バイリンガル児（日英両語同時習得）のコードの切り替えに関する縦断的実証研究

M: Shall I read it in English this time? に対して、T:/Ah! Yeah!!/ と身体中で喜びを表現する。）

2.2.1 “Ten” vs 「十（じゅう）」の例

(2; 6.9) M とトーキーカードで数字遊びをしている所へDが来る。二人の英語の会話に影響されDも英語で話しかける。D: What's the number? T: /Eleven./ M: Good. T said eleven. D: What's this number? T:/You know!/ D: I know? One? T:/No!/? D: Eleven? T:/Hum? No!/? M: Ten. Isn't it ten? T: 「ウ ン」/Okay!/? M: Okay. In Japanese? T: 「ジュ ー」。

2.2.2 “Frog” vs 「かえる」の例

(1; 4.1) *Brown Bear* は日本語でも読み聞かせたが、この絵本は特に、英語で読んでもらうことを好んだ。“Frog”の初出は、T:/Where's a frog?/ であった。

(2; 7.4) ①絵本の *Colors and Shapes* を度々読み聞かせているうちに、T:/Triangle, square, circle, red, blue, white, pink, black, green, yellow, purple./ などの言葉をたやすく言えるようになり、絵を見ながら数量を表す。誉められると嬉しい様子で、自分から本を開き、Mに説明をする。T:/Seven./ M: Seven what? T: Seven rabbits. M: Yes, that's right. How clever! What's this, T? T: 「ン」 「カ エル」 M: In English? T: 「カ エル」 M: What do you say in English? T:/Frog. Frog!/? ②絵本 *Brown Bear* の読み聞かせ中、文末の言葉をTがMより先にどれも明確な発音で言えるようになる。英語での読み聞かせでは、“Frog”，日本語での読み聞かせでは「カエル」を多産している。

(2; 11.4) M: Black Sheep Black Sheep, what do you see? I see a? T: /Green Flog!/? M: Yes! Green's your favorite color, isn't it?

2.2.3 「熊さん」 vs “Bear” の例

熊さんの絵本は乳児期から度々読み聞かせ、熊の縫い包みで遊ぶことも多いためと思われるが、「ク マサン」も“Bear”も一語発話期（1; 5.2）に既に産出され、（2; 1.4）には“Teddy”が産出されている。Tの「クマサ

ン」に対して、Mが英語では何と言うのかを尋ねると、適切に躊躇することなく“Bear” (2; 11.1) と答える。この年齢になると、この他の例でも、動物や色の名前を英語で自信を持って発音している。

(2; 11.1) 絵本 *Colors and Shapes* でMと遊んでいる場面。T:/Triangle! Triangle!/ M: What's this? T:/Triangle!/ M: Triangle,yes! How clever! How about this? T: 「ク マサン」 M: In English? T:/Bear, bear!/ M: Right! Bear. In English it's a bear./ T:/Hum, bear./ M: Good girl!

2.2.4 Carrots vs 「人参」の例

(2; 11.1) 野菜の絵本を読む場面。M: I wonder what kind of vegetable this is? T:/Carrots/ 「ニ ンジン」 M: In English? Ninjin is called in English ... carrots. T:/Ah! Carrots!/ 自分で言えるのにMが先に言ったことに抗議。

2.3 思いを通すのに効果的な言語を選ぶ例

(2;11.9) Dがドアを閉めると咄嗟に、T: 「シ メタラダメ」。テレビの音が大きくてDに聞こえないことが分かると再び、T:/Open the door. Daddy, Daddy, open the door, please!/ 大声で頼む。しかし、依然聞こえない様子に諦め自分で閉めに行きながら、T:/Don't shut the door./ (ノ) とつぶやきながら、ドアを自分で閉めて立ち去る。

2.4 日本語と英語が似ている場合の分離

発音が非常に似ているが、英語の構文中では英語の発音で、日本語の構文中では日本語の発音で区別をはっきりしていることばがいくつかある。その一例として“Book” vs 「ブ ック」を以下に掲げる。この他に多用する言葉として、“Milk” vs 「ミ ルク」, “Orange” vs 「オ レ ンジ」, “Banana” vs 「バ ナ ナ」(広島弁), “Lemon” vs 「レ モン」がある(詳しくは、資料3.を参照)。

(2; 5.9) M: What did you say? でんでん虫? 本をたくさん抱えながら
T: 「デ ンデンオ チタ」 M: ん? T: 「ナ ヌノブック オ チテシマッタ」。

奥田：バイリンガル児（日英両語同時習得）のコードの切り替えに関する縦断的実証研究
(2;9.9) Tが選んだ本が難しいとMに指摘され, T:/I wanna read the book!/
と泣き声で訴える。
(2;10) ①朝起きると本を見つけ, T:/I find my book./ M: Yes? Oh, did
you find your book! ②本を持って立ち去ろうとするTを呼び止めたMに,
T: 「“Mommy” ノブ ックハコレ」とMの勘違いを指摘する。

3. 同義語とその発話状況

資料で掲げた同義語からも分かるように、同義語は名詞のみではない。間投詞、数詞、疑問視、形容詞、自動詞、他動詞、代名詞、助動詞と多品詞に亘り産出されていることを本研究で証明し得たことを特筆しておきたい。一語発話期における同義語の産出を証明する先行研究のうちでも、説得性に富むQuayの研究結果では、(1;10.1)に産出された同義語(54)のほとんどが名詞(51)であった(Quay, 1995, p. 379)。これは、実験の場で子供を遊ばせ、そこから得た発話データの分析であったためであろうと思われる。しかし、いかなる状況下においても同義語が産出される限り、言語の混乱はない、との見解を明らかにしているQuayの先行研究は貴重である。その見解を踏まえ、本研究では、実際のコミュニケーションの場での同義語の産出を証明することができた。本研究の分析データは、バイリンガル児が、実際の生活の場で自己の気持ちや希望を告げ、欲求をかなえていくための、いわゆるサバイバルのための言語使用の実際である。

本研究では、特に、同義語のうちのどちらかの言語での言葉が既に一語発話期に産出されているが、もう一方の言語での言葉は、2～3歳(2;0.1～2;11.9)に産出された場合に注目してみたい。見出しにはTの意味する言葉に最も近い大人の言葉を使うが、見出し以外はTの発話のままを掲げる。従って、Tの発話は「アリヤト」であっても、見出しは「ありがとう」とする。なお、Tの日本語の発話は「 」に片仮名で示し、英語の発話は / / 内に記すが、発音が標準と異なる場合には発音した通りを [] 内に発音記号で示す。Tの意図しようとする言葉が不明確な場合には、その想像され

る意味を () 内に入れ、それに続けて ?? を付加する (例 [kwa:káenja] (Can you ??)。定形表現 (例 「ナ」イナイバー」(いないいないばー)) は一語以上で成り立っているが、一固まりの表現として記載する。日本語と英語が同一文内で混合して使われている発話は、「“Open”シ」テ」のように表す。2歳以前に産出されことばの状況が分かる会話の詳細は、基本的には記述をしないが、これまでの論文で論じていない表現に限っては、紙面の許す限り記載する。例えば、*Tea* (1; 6.9) の場合であるが、そのことばがどのような状況で、どのような表現の中で産出されたかを示す (31. 参照)。言語の識別能力の有無を明らかにするためには、その産出状況、特に、誰がその場に居合わせたかについての情報が重要である。

1. *Book* (0; 8.9); 本, ブック

(1; 4.5) で、Dに本を読んでごらん、と話しかけられた時に、T: 「ハ」ータ」(本 ??) と問い正した。しかし、本としっかりした発音が聞かれるようになったのは2歳以降である。

(2; 2.1) Dに絵本を一冊渡し、T: 「ハ」イ “Daddy”」何冊か抱え、T: 「ホ」ンチョーダイ」。

(2; 5.9) 上記2.4参照。

(2; 9.9) ①M: Shall I read? T: 「コ」ッチコッチ」 M: Do I read this? T:/Book!/ M: Oh “Gomennasi ga iemasuka?” This is a difficult book, T: /I wanna read the book!/ (3.の23.を参照)。②M: What is it, T? T:/What is it? Book!/ (当然本よといった抑揚)。

(2.10) 上記2.4参照

(2; 10.1) ①お風呂で水遊びをしながら多弁な T:/You hold me at the pool./ M: Hum. It's a beautiful day, beautiful day. ビニールの本に触り、T:/Dear Book, Dear Book./ M: Hum? T:/“Bye-bye Bunting.” I got it. This is “Bye-Baby.” I'm gonna like it. I wanna ... from it. Book, book./ 独り言から歌う調子になり、T:/Bye-bye Bunting, Daddy's gonna ... This is my

奥田：バイリンガル児（日英両語同時習得）のコードの切り替えに関する縦断的実証研究

Daddy. Bye-baby./ ② M: Hi, T. Let's wash. T:/I'm really busy with a book./ ③お出掛け前も本を離さず独り言, M: We'd better change. Hum? T:/I'm busy reading./ M: Oh, you're busy reading a book? Oh. We'd better change, though. T:/No! No! M: I'll take you to town. Daddy, Mommy and T will all go to the tomb, grave "ohakamairi," T. T: 「Wash, wash」イ ヤ イ ヤ ダ M: "Wash wash" 嫌だ? T: 「ウ ン」 M: Oh, we have to. T:/I'm busy./ M: I know you're busy reading, but we have to go. この年齢に、度々本を読む真似をして遊ぶようになる。

2. *Need* (0 ; 10.2) ; いる

(1 ; 9.9) Dと買い物から帰ったTが、Dに品物のある場所を教えてあげたいとMに話して聞かせる。T:/I need you you. I need you you I./ M: Oh, I see. You told Daddy where the things are? T: 「ウ ン」。

(2 ; 2.5) スナグりをDに差し出しながら「ヤ ッスンスニイル」。

(2 ; 3.6) Dに向かい、T: 「コ レイル?」 D: いる。

3. *Up* (1 ; 0) ; オッパ (おぶうの幼児語)

(2 ; 0.3) 朝保育園でのこと、先生の後ろに回り、先生の前のおぶうの縫い包みを突っ込み、T: 「シ エンシエオ ッパ」と言いけらけら笑って喜ぶ。

4. *Like* (1 ; 0), *Love* (1 ; 2.3) ; 好きよ, *I love you, I'm gonna like it*

(2 ; 2.9) M: Shall we watch "Sesame Street?" T: 「シ エンシエシヤミス キー ヨ」 M: Do you like "Semase Street?" T: 「ウ ン」。テレビ番組のセサミストリートを見たい時は、「シ エ シヤミハ」(ノ)と催促したりもする。Mと『おにぎりだいすき』を読みながら、おにぎりを作る真似をして遊ぶ。日本語で読み英語で説明を添えている関係で、Mの発話がおおかた日本語となる。そうした状況では、TはMに対しても日本語を多く使用。T: 「ア ッタカイ」 M: あったかいあったかい。Nice and warm rice.

T: 「ア ッタカ イ ア ッタカ イ ワ ター ス キ ーヨ」。Mと風船を飛ばして遊ぶ。M: Wee-wee! T: 「イ ネ ー ス キ ーネ」。

(2; 3.6) Dと縫い包み捜しをして楽しそうに遊ぶT。M: Did you say, “I love you, Daddy?” Tell him aloud. T: /I love you Daddy!/ (p. 261 参照)。

(2; 6.9) D: それ。T: 「コ レ コ レスキ」 D: これどれ好き? T: 「コ レキライ」 D: イサム君嫌い? (男装の人形を嫌う。)

(2; 8) 食べた物の好き嫌いをはっきり言うようになったT, “Rickie” というお菓子を食べてMに知らせる。T: /I like Rickie./

(2; 10) MとTが衣服を着せ合いながら遊んでいる場面。M: We’re all dirty, but we don’t care. We’re black UFOs. T: /Put a coat on you./ M: You put this over me? Thank you. The ocean ... T: /How do you like it?/ M: How do I like it? I like it!

(2; 10.1) お風呂で水遊びをしながら多弁になる。T: /This is “Bye-baby. I’m gonna like it./ (1. 参照)。

5. *This is done* (1; 0.9); すんだ, おしまい

(2; 1.1) 歯みがきに飽きると, T: 「ス ンダ」と言い擦り抜けて去って行ってしまう。

(2; 1.6) 自分で本を読み終わると, T: 「ハ イオシマイア・リ・ガ・ト・ウ」と言いながら本を閉じる。

6. *Up and down* (1; 2); ギッタンバッコ

(2; 0.2) テレビの「おかあさんといっしょ」の番組のハイポーズになると友達と押したり引いたり。先生が膝に乗せて, ギッコンバッコをしてくださると大喜びで, T: 「ビ ッキ バ ッキ」。

(2; 11.4) ビデオの“Peek-a-Boo”を見ながら, T: /Up and down! Up and down!/ と独り言を言いながら体を動かして遊ぶ。

7. *And* (1;2.1) ; ~と

(2; 5.8) M: Put it in the oven ... for whom? T:/Shiori-chan and me./ “Pat the Cake” の替え歌で英語の “And” が定着。Mとの会話にも積極的に使用。

(2; 6.8) ①歌を歌いMに聞かせる歌の文句に「ト」が多発。T: 「カ ニサ
ント」 M: ふーん。 T: 「カ ニサ ントカニサント ジャ ンケンシタラ
コ コーコーコーコ」 M: じゃんけんしたら。What happens? T: 「グ ー
グーグー」。②床に散乱している衣類を拾いながら, T: 「コ レト ー
コ レト ー」 M: It's messy, isn't it?

(2; 6.9) M: T, it's your bedtime. T: 「“Daddy” トネ ル “Daddy” トネ ル」
「“Daddy” ト ネ ルッ!」

(2; 8.8) D: 朝御飯食べに行こう。縫い包みをいっぱい持ちドアの前に立っ
て, T: 「コ レト コ レト ア ケララーン ア ソブ ー」

(2; 9.7) T:/Daddy and Mommy./ と遊びに誘い, Mが来ないと, T:
/Mommy, too./

(2; 11.4) 絵本を開きとめどなく英語で読む真似。T:/Ernie and Birt. Big
Bird, Big Bird and a yellow cake. Everybody, please./ D: はい。T:/Ah,
Grover brought a blue cake./ D: Did Cookie Monster give everyone a piece?
T: 「ウ ー ン」 /A piece./ M: Thank you, T. That's interesting. D: What's
next. 読んで。T: 「ウ ン」 /Big Bird and Copy Cat./

(2; 11.9) T:/Hop on one foot, up and down!/ と歌いながら片足で跳ねて遊
ぶ。

8. *Teacher* (1;2.1) ; 先生

(2; 0.3) 先生に箸を取ってもらいたい時は, T: 「シ エンシェハシチヨー
ダイ」 とお願いする。

(2; 1.2) T: 「シェ ンゴクシェンシェ」 「シ エンシェアツ イ」 先生に
呼びかける時, 名前を言うようになる。

(2; 1.3) T: 「シ エンシェモド ーゾ」 とお茶を差し出す。

(2; 1.7) ①大学のプールで水泳。足から水中にジャンプするのが得意。ジャンプする前のこと、先生はそこにいないが、T: 「シエ」ンゴクシエンシエ」 /One, tow, three!/。②D: 仙石先生って言ってごらん。T: 「セ」ラダシエンシエ」と無理に間違いケラケラ笑う。③ダンボールで作った家に先生を誘い、T: 「シ」エンシエオイデ」。

(2; 2.1) 昼食でカレーの時、T: 「シ」エンシエオオキイスプ」ーン」と言いながら自分のと比べる。

9. *Do* (1; 2.8), *I wanna do* (1; 6.4); ~して, *Let me ...*

(2; 0.4) ①昼食の食卓にボールを持ったまま座っている子供がいると、Tは先生の手を取りその子供の所まで誘導し、T: 「シ」エンシエハイシテ」(「先生にボールを渡して」と言い聞かせる)。②お皿について焼きそばが箸でとれないのでお皿を先生に差し出し、T: 「シ」エンシエキ」レキレシテ」。③帰宅後もとめどなくおしゃべり。夜(7:30)食卓のそばで独り言、T: /One, tow, three!/ 「ア」ーアーチョンワーワー」コ」ーシテコーシテウ」ーウーウ」ートントントンパンガトッパンガポッポッポッポポポ」マ」メ」ノホシウ」ン」マ」ミチャブカー」ク」ーア」ア」ーア」。

(2; 0.8) 戸を開けてほしい時Dには、T: 「ア」ケテ」, Mには、T: /Open it./。すぐ願いがかなわないと、DにもMにも、T: 「“Open”シ」テ」と言う傾向が一週間くらい目立つ。

(2; 6.8) ① M: Who wants this slice of apple? T: /I do!/ ② M: Let me change your pants. T: /I do./ (自分です)。

(2; 11.5) テレビで漫画を描く場面を見ていて、T: /Let me try it./ と言い紙を探して来て書き出す。

10. あそこ (1; 2.8); *There*

(2; 2.9) T: 「カ」イカイ」 D: 蚊にさされた? ここ? T: 「ウ」ンココ」 D: ここ? T: 「ウ」ン」 D: 薬は? T: 「ク」スハ」 D: 薬はどこ? お母

奥田：バイリンガル児（日英両語同時習得）のコードの切り替えに関する縦断的実証研究

さんある？ M: I don't have any. T: 「ネ ア シコアシコアシコアシコ」
D: これ？ これ目薬よ。T: 「イ ヤ ダ ア シコアシコアシコアシコ」
D: これ？ 水虫の薬よ，マミー。T: 「“Mommy”ハ イ」 D: これじゃない。
T: 「“Mommy”ハ イ」 D: これじゃない。T: 「“Mammy”ハ イ」 M: Hum?
T: 「ア ッチアッチ モ コモコ」 M: 向こう？ I'll go get it. T:/Hum./
M: thank you.

(2 ; 3.6) D: くろちゃんのソフィーどこだ？ M: Does the doggie have his own sofie? T: 「ウ ン」 M: Really? D: Kuro-chan has one too. M: Is that right? Oh, that's right. He's chewing on it all the time. He has his own security blanket, you know. D: ははは（笑） D: Tちゃん，Tちゃん。
T:/Hum?/ D: Where's Daddy's sofie? M: Hahaha. D: Where, where's Daddy's sofie? T: 「ア ッチ」 D: Where's Daddy's sofie? T: 「ア ッモ コ」 D: 向こうにある？ T: 「ウ ー ン」 D: Where's Mommy's sofie? M: I don't need one. T: 「ア チョコ」 M: Oh, really? T: 「ウ ン」。

(2 ; 9.7) M: I see. So you found the newspaper there. T:/Found it there./

(2 ; 9.8) ABCの本を開き英語でとめどもなく一人で読んでいるのを見て，
M: Oh, you're reading an alphabet book? T: 「ウ ン」。 M: Are you busy reading books, aren't you? T:/Yes. There, there, there./ 読んでから並べた本を指す。

11. *Frog* (1 ; 4.1) ; かえるさん，かえる

(2 ; 2.9) かえるのカードで遊びたがり，T: 「カ エルタン」と主張。M: Will you get me the hippo? T: 「カ エルタン？」 M: No, Miss Hippo. T: 「カ エルタン」 M: No, Hippo, Hippo. T: 「カ エルタン」 M: All right. Get me the frog. Thank you.

(2 ; 7.4) M: Seven what? T: Seven rabbits. M: What's this, T? T: 「ンカ エル」 M: In English? T: 「カ エル」 M: What do you say in English? T:/Frog frog./

(2; 11.4) 絵本 *Brown Bear* の読み聞かせでは、文末の言葉をTが先取りしてどれも明確な発音で言う。M: Black Sheep Black Sheep, what do you see? I see a? T:/Green Frog!/ M:Yes! It's your favorite color, isn't it?

12. *Write* (1;4.4);書いてて, ジロジロ, ジロジロしてて, ジロジロ書いてて

(2; 1.5) 鉛筆を差しM, Dにともなく, T: 「ジ」ジ「カ」イトッテ」。

(2; 2.4) T: 「ジ」ロジロ」と言いながら字を書く。

(2; 3.6) T: 「ナ」ヌノ「ジ」ロジロ」 D: なぬのジロジロするってどういうこと? Tちゃんなにジロジロするの? 字書くの? T: 「カ」イタ!」と何か書いては得意そうにDに見せる。

(2; 8.2) M: 「今日お母さん来ていて嬉しかったでしょと話し掛けて邪魔されたくない様子で…」と保母の日記をMがTに読み聞かせようとする時, T: 「ジ」ロジロシテテ」とMをさえぎる。

(2; 11.9) *Funny Farm* を読みながらゲラゲラ笑っているTに, M: Shall I read it to you? Mのワープロを差し, T:/Mommy, work it./ 「ジ」ロジロカイト」と駄目押し。自分で本を読む真似をして楽しそうに過ごすことが多くなる。

13. ついた (1; 4.5); *Stuck*

(1; 4.5) シールを自分でつけるのに成功して, T: 「ス」テ「ッカーツイター!」と感激の様子。

(2; 11.4) T:/Hahaha!/ M: Playing on the swing? T:/Ah, ah!/ M: Oh, is it tangled? T:/Ah, ah! Stuck!/? M: Stuck? M: ちょっと待って。Just a minute. This way and this way. はい。This is not stuck any more. T:/Thank you./ M: Hum. You're welcome.

14. *can* (1; 4.6); 出来たよ

(2; 2.3) 食後自分で手で口の回りをきれいにふいて, T: 「デ」キタヨー」。

奥田：バイリンガル児（日英両語同時習得）のコードの切り替えに関する縦断的実証研究

(2; 9.2) 割り箸の折れたのをDがテープでとめて直してTに渡すと嬉しそうにしていたけれども、しばらくしてMに、T:/I can fix it. Mommy, no./ 手助けしてもらわなくても自分で直せると言うTに、M: I can fix it, too. とMが自分も直せると反論すると、T:/No! Ah!./ と反論。M: Okay, okay. You are the only one who can fix it. T: 「ウ ー ン」と言いニコニコ。

(2; 11.9) 本を読む真似をしていたT、Mが近付くと、T:/I can read all by myself./ と誇らしそう。M: I know. I'm very proud of you, T.

15. *hat* (1; 4.6) ; 帽子

(2; 9.8) 独り言を言いながら遊びに興じる。T: 「ア カイボウシカシテ
ミ ンナ ノオオキーノモ ア ンナト コオイタッタンヨ」。

16. *Nose* (1; 4.9) ; 鼻

(2; 1.4) てんぐの歌を盛んに歌いながら鼻を指す。T: 「テ ングガパ タ
パタ ウ ントントン ハ ナハナハナハナ...」

(2; 6.8) D: これなあに? T: 「ハ ナナナナ」。

(2; 10) M: Cover your nose when you sneeze, T. Mがくしゃみをするとすかさず、T:/Cover your nose! M: Cover your nose? All right. (笑)。

17. だれ (1; 5.1) ; *Who*, だれだ

(2; 0.2) いろいろな物を見つけて遊ぶTに、M: What are you doing? T: 「コ エダ レノコエ」 M: だれの? Whose is it? Whose is it? Mommy's? Is this Mommy's? マミーの? だれの? T: 「“Mommy”ノ」。

(2; 0.3) 歌（ポッポポ）を歌いながら一人遊びをしていたが、急に歌いやめ近くのMに向きなおり、T:/Who sleep over there each night? M: Hum?

(2; 2.9) 写真のアルバムを見ながらMに聞く、T: 「コ レダ ーレ
コ レダーレ」 M: This is Jessica.

(2; 11.4) D: ソックスは? T: 「ウ ー ン ア カチャンアカチャン」

ウ ンダレダ ア ー ソ ックス」。本を見ながらDに問いかける。T:
「ダ レ?」

18. *Ate* (1; 5.2) ; 食べたんよ, 食べたよ, 食べよう, 食べちゃう, *Can eat*
(2; 1.4) 縫い包みとままごとをしていたT, Mを呼びT: 「オ カ ーサーン」
M: はーい。T: 「タ ベタンヨ」

(2; 3.6) M: T's, T's tomato. 食事中とまとを食べるように言われ, T: 「タ
ベタ」 M: Hu? T: 「タ ベタ タ ベタ」。(T: 「タ ベタ イ」 (1; 9))。

(2; 5.9) D: はは, (柿が) 落ちる。T: 「イ ラッショニタ ベヨ」 D: う
ん一緒に入れて。T: 「イ ッショニタベヨ」 D: 一緒に食べよう? T:
「ウ ン」 T: 「ト リサンガ」 D: 食べた? T: 「ウ ン」 D: ほんと? T:
「タ ベチャウ」 「モ ウナイ」 「タ ベタライイ」 (たべでもいい?の意味)

(2; 9.7) ① D: これけしゴム。T: 「ゴ ム?」 D: けしゴム。T: 「タ ベ
ラレ ナイノ」 (この否定形は, かなり複雑な構文のようであるが, これ
は, しばしば保育園で保母が事故防止のために多様する表現であり, 一つ
の固まりとして覚えているようであった。英語 “Can't you eat it?” は産出さ
れていない。英語では, Not edible の表現の方をMが使用している。) D: 食
べられないの。字を鉛筆で消すもの。M: T-chan, that's an eraser. T:
/Eraser?/ M: Hum. Eraser. ②本を広げ読む真似をしながらとめどなく英
語が飛び出している。T:/A little I said it. They ask everything. I can eat
my catup./ M: Oh, you are reading an alphabet book. T: 「ウ ン」
M: You're busy reading, aren't you? T: /Yes, there! There! /

(2; 10) 同年の女友達Sと遊んでいた時の会話。S: 「タ ベテイイ?」 T:
「タ ベタライイ?」 (食べてもいい?)

19. *Ten* (1; 5.2) ; 十

(2; 6.9) 上記, 2.2.1 “Ten” vs 「十 (じゅう)」を参照。

20. Pen (1;5.2) ; ペン

(1;5.2) ①Mは毎日、Tを膝に抱きながら連絡帳(1.4参照)にTについての詳細を書いた。Mが書き物をせさせとするMの手元を見ながら育ったTは、物を握むことができるようになると、Mのペンを欲しがり、T: [pe:pe]/I wanna draw?/ M: You wanna draw? お絵描き? Here you are. Write on this paper. This is Sunday. ②T:/a pen, a pen/ と言いながら一人遊びの時にペンを並べて遊ぶことが多くなる。

(2;10) ①英語でペラペラ独り言。T:/A cake there. How do you do?/ M: How do you do? Did you say “How do you do?” “How do you do?” って言っ
て。Mを無視して独り言を言いながら遊びに夢中。T:/Got a pen? Got a pen?
Take one. Did you mark with a pen ... You’re gonna ... the ... ah .../。

②T: 「モ ットペンモットペンモットペン」(9回繰り返す) T: 「ン」
「モ ットペン」 「ア ー ア ー!」 D: わあきれい。虹が見える虹, Rain-
bow. T: 「ニ ジ」/Rainbow?/ D: Rainbow. T: 「シ ヨレ ー」 「モ ッ
トペンモットペンモットペン」

21. Bunny (1;5.3), ピョーンピョーン; 兎, Rabbits, 兎ちゃん

(1;6.3) 本, *Pat the Bunny* をMに差し出し [b^b^] (Bunny)。

(1;6.5) Mが本, *Opposites* を読み聞かせている場面。M: Open-shut, open-
shut. Can you do it slowly? T: [ápən] M: [ou] T: [ou] M: Open and
shut, shut. Shall I do it, “Open and shut?” Open and shut. (12回繰り返す
間, TはじっとMの手元に見入る。M: Shall I go to the next page? Turn
over the page. This man is asleep. This man’s awake. Up and down, Up
and down, Up and down, Oh, all the eggs are broken. Light and dark. T:
[b^: b^:] (Bunny) M: *Pat the Bunny?* Okay.

(2;1.5) 保母: 兎取って。T: 「ピ ヨーンピョーン」。

(2;3.6) M: What did you do today? T: 「シ ャーリウサギ シ ャーリ
シャーリ」 「ウ シャギウシャギ」 保育園で仲良しのしおりちゃんと兎を見

て遊んだことを一生賢明にMに話し聞かせる。

(2; 6.6) T: 「ウ」 シャギド 「コ」 縫い包みを捜して歩きながらDに聞く,
D: ここにある。

(2; 7.4) M: Will you choose the book you want me to read? T: 「ウ」 「ン」
M: Which book shall we read, T? 兎が七匹描いてある頁を開き, T:/Ah,
seven rabbits!/ M: Seven rabbits? Count them.

(2; 8.8) 着替えの場面。D: まあTちゃんは背が高いね。You're tall.
You're tall. M: T grew taller. T is a little over ninety. Just a minute. You
have to change the top, too. How about the one with a giraff? T: 「ウ」 シャ
ギチャンタ 「ツチ」 M: 兎ちゃん立っち? T: 「ウ」 「ン」 D: これ兎ちゃん。
T: 「ウ」 サギチャンタ 「ツチ」 M: I think it's sill wet. T: 「ア」 「ー」
ウ 「シャギ！」

(2; 9.5) 兎の人形にタオルをはおらせ独り言。タオルをめくり, T:
「オ」 「シ」 「ッコ」 「ウ」 サギチャオシ 「ッコヨ」

22. *Can't* (1; 5.3); できない

(2; 11.4) Mが掃除機をかけているそばでテープをちぎろうとして急に,
T: 「デ」 「キ」 「ン」 「ア」 「ー」 「デ」 「キンデキン」 M: できない。You say, "dekinai."
T: 「デ」 「キナ」 「イ」 M: Are you gonna take it inside? T:/I can't./ M & T:
/do it./ M: I can't do it. T:/I can't do it./ M: Right. What can't you do?
T:/Ah, ah!/ M: What do you want me to do? T: /Pull it./ M: Hum? Pull
it? T:/Almost./ M: Yes, you almost got it.

23. *Read* (1; 5.4); *Reading*, 読んでよ

(2; 9.9) M: Shall I read? T: 「コ」 「ツチ」 「コ」 「ツチ」 M: Do I read this?
T:/Book!/ M: Book. Oh "Gomennasai ga iemasuka?" This is a difficult
book, T. M: Oh. What's this book? T:/Oh oh oh. Yes, a baby's. I wanna
read the book!/ (半泣き)。

奥田：バイリンガル児（日英両語同時習得）のコードの切り替えに関する縦断的実証研究

(2; 10.1) お出掛け前も本を離さない T に, M: We'd better change. Hum? T: /I'm busy reading./ M: Oh, you're busy reading a book?

(2; 11.4) 大好きな本「ミミちゃんのかさ」Mに差し出し, T: 「ヨ」ンデヨ」
M: はい。 *Whose Umbrella Is This?* I'll read it. Just a minute. T: /Umbrella./

(2; 11.9) 英語の本をたくさん広げて読む真似をしていた T は M が近寄ると, T: /I can read all by myself! / と自信に満ちた表情。

24. *Brush* (1; 5.6) ; シュワシュワ, 歯磨きは

(1; 5.6) 『はみがきシュッシュッ』を毎日読み聞かせているうちに歯磨きに興味を示し, 嫌がらなくなる。食事後すぐに自分でブラシを M に差し出し, T: [tutu tutu] 「ヨ」と歯を磨きを要求する。

(1; 6.3) 縫い包みのコアラを抱いて歯ブラシを片手に, T: 「bʌ:bʌ」と言いながら一人遊び。

(2; 1.6) テレビの子供番組に歯みがきの場面で必ず繰り返される, T: 「シ」ユワシュワ」を多用。歯ブラシの新しいのを取り出し, T: 「シ」ユワシュワ」と言いながら磨く真似。歯磨きが遊びの一部分になっている。

(2; 1.8) うがいをしてから, T: 「シ」ユワシュワモーツカイ」 「シ」ユワシュワモーツカイ」と繰り返しながら自分でうがい。

(2; 6.8) T: 「ハ」ミ」ガキハ」 「ハ」ミ」ガキハ?」 M: T, did you find your brush? D: T の歯ブラシは? M: I'll give you a blue one. T: /Blue one./

25. *Gargle* (1; 5.6) ; グジュグジュペー

(2; 1.8) うがいに興味を示し, 給食後は自分ですぐコップを持って流しへ行き, T: 「グ」ジュグジュペ」ー」と自分で言いながらうがいをする (「ペ」ーペー」は (1; 4.7) を参照)。

26. *Big* (1; 5.6) ; 大きい (の), 大きな

(2; 0.1) ①大小のあひるの縫い包みを抱いて, T: 「オ」オキ」イイノ」

チ「イサ」「イノ」「オ」「オキ」「イダック」チ「イサ」「イダック」と両方だっ
こしてDのスナグリに入り屋上へ星を見に行く。②DとMの時計を見比べ、
T: 「“Daddy” オ「オキ」「イヨ”Mommy”チ「イサ」「イヨ」。

(2; 0.7) D: はい、貝があるよまだ。ここ大きい貝があるよ、Tちゃん見
てこれ、大きい貝、はい。T: 「オ」「オキ」「ナヤッタイーヨ」

(2; 1.9) Cと機械にトーキーカードを通して言葉の音声を聞いて遊んでい
る場面。C: Who's that? T: 「オ」「オキド」「ータン」C: 大きなぞうさん, A
big elephant. Put it in again. That's right. Cは英語話者ではあるが日本
語が流暢なのを察知した時点で、Tは主に日本語に切り替えている。

(2; 2.9) M: Show it to Daddy. It's a big one. T: 「“Daddy” ミ「テオッ
キーノ」D: むすび。

(2; 5.9) D: ぱかっと割れてほいから? T: 「タ」「ベヨタベヨタベヨ
オ」「オキナモモ」「タ」「ベヨ」D: 桃食べよって (M笑) で、で桃切ろうと
思ってどうなったの? 赤ちゃんよね。T: 「ジ」「ャブ」「ージャブーン」

(2; 6.8) M: Where did you go last night? T: 「オ」「オ」「キナカブ」M: Right.
Tell me louder. T: 「オ」「オキナカブ!」D: おー。T: 「オ」「オキナオクダ」
と食事後Dに話しかける。D: はい。奥田何て言うの?

(2; 11.4) 絵本 *Peter Pan* を何回も読んでほしがる。Mが文の最後の言葉
を読む直前にTがその言葉を言い当てる。M: Tink looked and saw a...?
T:/Boat./ M: Right. T:/It was a big boat./ M: Yes, a boat.

(2; 11.9) Tの描いた絵を見て、M: Is this a rabbit? T:/Rabbit, long ear/
そして歌い出す。T:/In a cabin, in the woods, a rabbit knocking at the door./

27. *Draw* (1; 5.6), 描いてある; I'm drawing, 描いて, 描いたらだめ

(1; 9.9) 隠し絵で遊びながら、D: どうしてないないできるんかね (どう
して絵が消えるのかね)。T: 「ナ」「イナイ」「コ」「コナ」「イココ」(ここなく
なってる)。D: ん? T: 「コ」「コニカイト」「ール」(ここに絵が描いてあ
る)。

奥田：バイリンガル児（日英両語同時習得）のコードの切り替えに関する縦断的実証研究

(2; 6.8) M: What are you making? T: 「オ ニ サン」 M: 鬼さん? T: 「ウ ン」, M: You are drawing an evil? T: 「ド ケテドケテ！」 /I'm drawing evil./

(2; 11.7) Mの留守中Dに, T: 「カ イテカイテ」青虫を描くと恐ろしそうに, T: 「カ イタラダメカイタラダメ ケ シテ」紙を上から貼り見えなくすると笑顔。D: Are you happy? T: 「ウ ン」。

28. *Chopsticks* (1; 5.6) ; 箸

(2; 0.3) 昼食事時, T: 「シ エンシエハ シチョーダイ」。

(2; 0.7) 給食時に隣のケン君が初めて箸を使ったのを見て, T: 「ケ ンク ンハシ」(ケン君の箸) 「ト モ タンハシ」と嬉しそうに箸を見せる。

(2; 2.3) 園で友達がTの箸で遊んでいると, T: 「ハ シカシテー」。

29. *Box* (1; 6.2) ; 箱

(2; 2.1) C: What did you find? Books? T: 「ハ コハコ」 C: Books? T: 「ハ ココレヨ」 C: What's in the box? Hum? 散歩の支度の場面。Tは箱を持って行きたがる。C: Are you gonna put the cap on? Put the cap on. T: 「ハ コ」 M: Can you carry the box? C: Take the box with you.

(2; 10.7) T:/Sofie./ M: Where did you leave it? T:/Box./ 箱の中を覗き, T: 「ア ア ッタ」。

30. *Clock* (1; 6.8) ; 時計, *Watch*

(2; 11.4) D: おもしろい時計。M: Whose “tokei?” “Tokei,” a watch. Whose watch is this? T: 「T チ ヤンノ」 It's my “tokei.” M: It's my WATCH. T:/My watch./ M: Yes, it's my watch. T:/My watch./ M: T's watch? T: 「ウ ン」。

31. *Tea* (1; 6.9); お茶

(1; 6.9) T:/Monkey./ M: Are you having a good time? T:/Tea, tea, tea./
M: Are you having a tea party with two monkeys? T:/Tea party./ M: Have fun!

(2; 0.1) Mが通りかかるとままごとをしていた T: 「“Mommy” オ チャドジョ」 M: Thank you, T. We love you. にっこりしてままごと遊びに戻る。

32. *Banana* (1; 6.9); バナナ

(1; 6.9) この年齢ではバナナが好物。買い物かごから取り出されたバナナを見て, T:/Wah/ [bá: tʃə] (Wah,/banana!)

(2; 6.6) M: Good morning, T. Would you like a banana? T: 「ウ ン」
M: Cheese or banana? T: [tʃi: dz]/or banana?/ M: Which would you like?
T: [tʃi: dz] M: Cheese, please? T: 「ウ ン」 M: Will you say cheese, please.
T:/Cheese, please./ M: All right. Shall I unwrap it for you? T: 「ウ ン」。

(2.10) Dと動物園で一日過ごした関係で家に帰ってからも日本語が多い。
D: Tちゃん。T: 「バ ナナドコダ」と言いながら立ち去る。ろうそくを見つけ, T: 「リ ヨーシヨク (ろうそく)。D: あ, ちゃんと気を付けて。何かある? T: 「リ ヨーシヨク」。バナナを取って来た M, M: One for Daddy. This is for you. This is for you. Shall I peel it? D: ん? ろうそく? D: ん? ろうそく? ハッピーバースデーの時するのね。T: 「ハ イド ーズ」
M: Thank you. ろうそくをMに渡し, バナナを食べながら, T:/Blue and red and yellow.../ と歌い出す。

33. *Pull* (1; 6.9); 引っ張る, グツ, *Pull it, Pull up*

(2; 1.3) Dに紐を付けて, T: 「ヒ ッパルヒッパル」引っ張り疲れると,
T: 「ヒ ッパッタナイ」と止める。

(2; 9.7) ① T: 「コ レアケテ」 D: You can. T:/Ah, Daddy!./ D: 立って開けてごらん。T: 「ウ タ ッテ」 D: 引っ張ってごらん。T: 「ア ケアケ」

奥田：バイリンガル児（日英両語同時習得）のコードの切り替えに関する縦断的実証研究

D: 力いっぱいグッと。 T: 「ア」ケアケ D: いっぱいグッ、開いたもう一回、もう一回、グッ、引っ張って！ T: 「グ」ッ M: Pull it, pull it, pull it hard. T:/Pull it, pull it./ D: もう一回引く、もう一回引く。 M: T, take the handle. T: 「グ」ッ M: Take the handle again. T:/Again./ 「ア」ケ D: はい、開くぞ。② Mと着替えの場面では英語のみ使用。 M: Show me you can put your pants on. T:/Pull up./ M: Wow! Good girl! I'm proud of you.

(2 ; 11.4) T: /Ah ah!/ M: What do you want me to do? T:/Pull it./ M: Hum? Pull it? T: /Almost./ M: Yes, you almost got it./

34. *Pretty* (1 ; 6.9) ; キレキレして (幼児語), きれい

(1 ; 6.9) M: Eat your carrots. T: [Pu: ti] M: Yes, carrots.

(1 ; 7.3) M: Would you like some carrots? T: [kækəts] M: That's right, carrots. Carrot looks like a flower. It's beautiful. Here you are, carrots. T: [pu: ti]. M: Hum. Pretty.

(2 ; 0.4) 保育園でお皿に残った麺をきれいに取ってもらいたくて, T: 「キ」レキレシテと保母に差し出す。

(2 ; 0.8) 保育園で保母が花を生けているのを見て, T: 「キ」レー。

(2 ; 7.3) 保育園で紙で作って持ち帰った花を抱えてMに見せ, T:/Pretty. Pretty./

35. *Carrots* (1 ; 6.9) ; 人参

(1 ; 6.9) M: How about carrots? T:/Carrots, two please??/

(1 ; 7.3) 上記参照。

(2 ; 11.1) 野菜の絵本を読む場面。 M: I wonder what kind of vegetable this is? T:/Carrots/ 「ニ」ンジン M: In English? Ninjin is called in English ... carrots. とMが先に言うと, T:/Ah! Carrots!/ と自分で言えるのにと残念がり大声で抗議 (上記2.2.3参照)。

36. 入る (1; 6.9); *Put in*, 入れて, *Get in*

- (1; 6.9) D: ジャブジャブジャブってきれいでしょ。石鹸だねそれ見して。
T: 「ヤ [一]」 D: 嫌, ははは。 T: 「ア!」 D: 中に石鹸が入ってる。ジャブ
ジャブジャブってね。きれいでしょ。 T: 「ヤ [ツタ [一!]]」 「ハ [イッター!]]」
(2; 6.6) M: Here you are. Put it in the trash can. T:/Put in the trash?/
M: 「ウ [ン]」。
(2; 7.4) T: 「オ [ト [一サンヤッスンスン]]」 D: Ask Mommy. M: Do you
wanna get in? D: ヤッスンスンヤッスンスンヤッスンスン。 M: 入りたい?
T: 「イ [レテ [一]]」 「イ [レテイレテイレテ]」
(2; 11.8) おもちゃのヤダモンを洗面器に入れながら, T:/Get in here./と
言いながら遊びに夢中。

37. いいってもう (1; 6.9); *I don't wanna any, You know, Okay*

- (1; 6.9) D: Tちゃん, Jちゃんの靴はどれ? Jちゃんの靴。それTちゃん
の靴? Jちゃんの靴ここにあるよ。Jちゃんの靴ここにあるよ。Jちゃんの
クック。ねー。 T: 「ウ [ウ [一]]」 「ワ [タシ [ノ]]」 D: ん? T: 「イ [イッテ
モ [一]]」。
(2; 6.8) Dとトーキーカードで数字遊びをする場面。 D: What's this num-
ber? T:/You know!/ D: I know? One? T:/No!/ D: Eleven? T:/Hum?
No!/ M: Ten. Isn't it ten? T: 「ウ [ン]」 Okay!/ (もうしつこいね, といっ
た感じで遮る) (2.2.1 参照)。

38. *Up* (上がるの意味) (1; 7.3); 上がれない

- (1; 7.3) ベッドにあがりたいた時には, Mに手を差し出して, T:/Up, up up./
(2; 1.8) 午睡の時, Mのベッドに上がってこようとしたが高過ぎて (60セ
ンチ) 自分で上がれず, T: 「ア [ガレナイ]」。

39. チチュー（牛乳の意味）（1；7.3）；*Milk*, ミルク, 牛乳

（1；7.3） ミルクをほしがり，T: 「チ チュー ーチチュー」と言った一時期があったが，それ以後は産出されていない。

（2；6.8） Mと食事中，M: That's all. T: /Milk!/ とお替わりを要求。

（2；6.9） Dと話していた T, D に向かい，T: 「ミ ルクハ」 D: ん？
T: 「ミ ルクハ」 D: ミルクお母さん持ってるよ。T: 「ミ ルクチョウダイ」
M: All right/ “Milk” とミルクの発音をはっきり使い分けている。

（2；10） D: 御飯食べたよ。T: 「ギ ユーニユー」と牛乳も飲んだことを伝える。D: Tちゃん，これは，箸，箸箸箸箸箸持って。ミルクから牛乳に変えてからも，ミルクと言うことがほとんどだが，牛乳ということばも知っていて時々だがDと話している時に使用する。

（2；11.6） D: ミルクとアップルジュースとどっちがいい？ 何に入れようかね。これに入れていい？ T: /Ah!/ D: うう待ってよ。入れてあげるから。はいはい。That's still empty. 待ちきれない様子で，T: /Milk, milk, please, please, please!/ D: Wait. Tの英語に引きつけられてDも英語になっている。T: /Milk, please./ D: Milk? T: 「ウ ン」 D: I thought you said apple juice. T: /Milk, please./ D: はい。T: /Whee!/ と嬉しそうな歓声。

40. 寒い（1；7.3）；*Cold*

（1；7.3） 戸を開けた途端に，T: 「チ ャーボ イ」。（この時期には，形容詞が多出している。他には，「カ ータ イ」「ア ッチ ア チチ」「ア チアチアチ ア ー」（熱い）があり，少し遅れて（1；7.4）には，「ク チャー」がある。

（2；0.2） トイレの後で下半身を洗いにお風呂に入るとまだ少し冷え冷えとした感じの日，T: /Cold./。

41. *Medicine*（1；8.1）；薬

（1；8.1） 薬を取りMに渡しながら，T: [me:] M: That medicine is for

grown ups. You cannot take it. Tすぐ棚に戻す。

(2; 2.9) Ah!。Dに蚊に刺された足を見せ, T: 「コ」ナナ「ッタ」 D:こんなになった? T: 「カ」イカイ」 D:蚊に刺されたここ。T: 「ウ」ンココ」 D:ここ? T: 「ウ」ン」 D:薬は。T: 「ク」スハ?」 D:薬どこ? お母さん。

42. あっち (1; 9.7); *Over there*, 向こう

(1; 9.7) 紙飛行機でTと遊んでいた D: あどこ? T: 「ヒ」コ「ーキア」ア「ツチアツチ」。

(2; 0.2) 一人遊びの手を休めMに向かって, T:/Who sleep over there each night?/

(2; 2.9) T: 「ア」ツチアツチ「モ」コモコ」 (10. 「あそこ」 (1; 2.8) 参照)。

43. 手手ちょうだい (及び), 手つなぐ (1; 9.9); 手つなご, *Hand-in-hand*

(1; 9.9) 保育園で友達と散歩の時は手をつなぐのが習慣になっている。Mにも手をつないでほしい時は, T: 「テ」テチョ「テ」テチュング」。

(2; 0.1) 保育園で友達と遊ぶ時, T: 「テ」テツナゴ」。

(2; 0.8) Dにすいかの皮で体のあちこちを拭いてもらい大喜びの T: 「オ」テ「テ」 D:うん。T: (大笑い)。

(2; 6.8) M: Let's go to the kitchen hand in hand. D: Hand in hand. T:/Hand in hand./ と手をつないで歌を歌いながら寝室から台所へ移動。

(2; 10) T:/Hurts./ とひざの傷を見せるTに, Mは手をこすり温めTの膝の傷痕に当てながら, M:Happy hands on my knee. “Happy Hands” は, 数か月前から読み聞かせていた本の中の台詞である。T:/Happy hands?/ M: Yes. Happy hands on my knee! It doesn't hurt any more. *Abradakabra-one-two-three!* T:/hahaha!/ M:It doesn't hurt any more, does it? T & M: /hahaha!/ (笑)。

44. 切って (1;9.9) ; *Cut*

(1;9.9) 贈り物の箱を開けようとするが思うにまかせず、そばにいるとDとMにはさみを差し出し、T: 「ア」ケテ 「テ」ッテ。

(2;3.6) T:/Wah!/
M:Did you cut your finger? T:/Hum./ M:Go and see Daddy? T:/Hum./ M:You're gonna tell him, "I cut my finer." T:/Cut./ M: Yes. "I cut my finger." Say, "I cut my finer." T:/ Cut./ D: You did? Oh! M: なんて言うの? What are you gonna say? D: Ouch! M: 指切った? T: ウ」ーン M: 指切った? T: 「ウ」ーン / Cut./ D: どうしたの何で切ったの, Tちゃん。M: Tell him. Tell him. D: ねえ How come? M: 何したのどうしたの? D: どうして? はさみ? M: No. D: びん? T: 「ウ」ン (Mの会話に日本語が多く混じっている例である。)

45. ねんね (1;11), 寝てる ; *Sleep*, 寝る, 寝て, *Sleep tight*

(1;11) 眠くなると, T: 「ネ」ンネ とDとMに言う。

(1;11.8) ベッドのDに, T: 「ネ」ネ テル ンカヨ。

(2;0.2) 一人遊びの手を休めMに向かって, T:/Who sleep over there each night?/

(2;1.1) 夜 (7:30) にDがテレビをつけたら, T: 「T」チヤンネンネ ヤ キューナ イバイバイ。Dはテレビでカープの試合を見るのを諦めDはTを肩車でベッドへ。

(2;6.8) おぶい紐をDに差し出し T: 「ヤ」ッスンスンヤッスンスン コ レネ ンネ D:うん。ヤッスンスンしてあげよう。

(2;6.9) M: T, it's your bedtime. T: 「"Daddy" トネ」ル 「"Daddy" トネ」ル M: Well, Daddy's busy. Will you sleep with Mommy? Yes? T: 「"Daddy" トネ」ルッ M: Well, I'll take you to the bedroom. Then I'll tell you a story about the old old lady who lived with 17 cats and one little gray kitten. Shall we go? All right? T: 「ウ」ン

(2;9.7) 一人二役 (日英) でおしゃべりをしながら遊ぶ。T: /Baby night.

Already night. Baby, night, Baby, baby./ T: 「チヨ ットネテ」 (人形を寝かしつけ足音を立てながら自転車遊びに戻る)。

(2; 11.1) M: “Bae-baby Bunting ...” 夜空の星を見せたり子守歌を歌ったりしながらTを寝かしつけようとするがふざけていてなかなか眠りそうにない。 M: Oh. it’s dirty. You put your finger in your mouth, didn’t you? T: /Sticky./ M: Sticky, T. It’s already after 9. Will you go to sleep? May I sleep in your bed? Let’s go clean your nose. It’s dirty. It’s dirty. T: /wah!/
M: Will you say “Congratulations again? It’s a big word. you know. My, my! Omedetoo. 遊んでいるうちにやっとTから, T: 「ネ ンネノジカン」 と切り出す。 M: ねんねの時間, ねんねの時間。

(2; 11.4) 絵本を読み終え寝る支度。 T: /Whoo whoo!/
M: Isn’t that an owl? T: /Good night. Sleep tight./ 「オ シマイ」 M: Good night. Sleep tight. オシマイだって (笑) D: (笑)。

46. 靴下 (1; 11.4); *Socks*, ソックス

(1; 11.4) Dの靴下を拾い上げ, T: 「Daddy” ノク ータ」 と独り言。

(2; 6.6) ソックスを捜しながら, T: /One socks./ M: Socks? T: /Another socks./ M: Another socks? T: 「ウ ン」 M: Another sock? T: 「ウ ン」。

(2; 11.4) D: ソックスは? T: 「ウ ー ン ア カチャンアカチャン ウ ンダレダ ア ー ソ ックス」。

47. *Broke* (1; 11); こわれた

(1; 11) T: /Ah!/
D: どこ行った? しっぽどこ行った, しっぽは? M: しっぽ? Where’s the tail? プラスチックの蛇のおもちゃで遊んでいたD, Mと一緒にTも大笑い)。 M: No, head. You have the tail. Where’s the head? T: 「キ テ」 /Head./ M: Oh, it’s right here. T: /Ah, ah. Black snake broke./ D: 持ってらっしゃい。お父さん持ってらっしゃい。直してあげるから。 M: Daddy says he’ll fix it. Daddy will fix it for you. D: Daddy

奥田：バイリンガル児（日英両語同時習得）のコードの切り替えに関する縦断的実証研究

will fix it. M: You have to take this, take the head with it, T-chan. D: あれも持ってきて、あれもあれも、Tちゃんあれも。M: T, head. You need the head, too. T:/ Ah, ah. ah!/
T: [コ] [ワ] [レタ]。保母がすぐTの相手をする事が出来ずにいると、Tはそばで、T: [コ] [ワ] [レタ] ナ [オ] [シテ]。保母がすぐ直すとTは嬉しそうにニコニコ。

48. 見つけた (1; 11); 見つけて来た, *I find my book., Foud it there.*

(2; 3.6) あまりマヨネーズをつけないように注意され、T: 「ナ」 [ヌノミツケテキタ] 「ス」 [キ] [ーノ] と主張。

(2; 9.7) M: What did you say? What did you say? T: I wanna get Nanuno ... everything walk ... newspaper./ M: Newspaper? T:/Found it there./

(2; 10) 朝寝起きに本を見つけ T: I find my book./ M: Yes? Oh, did you find your book! Shall I read it to you? T: 「ウ」 [ン]。

49. *Crab* (1; 11.4); かにさん, かに

(1; 11.4) T: “[kræ] (crab)” チ [ヨウダ] [イヨ] とDにおねだり。

(2; 6.8) 歌を歌いMに聞かせる T: 「カ」 [ニサント] M: ふーん。T: 「カ」 [ニサ] [ントカニサント] [ジャ] [ンケンシタラ] [コ] [コーコーコーコー] M: チョキチョキチョキ T: 「チヨ」 [キチヨキチヨキ] M: Are you gonna cut that? T:/Scissors/ 「ホ」 [ラカニサン]。食卓では、中身をほぐしてくれるDに、T: 「モ」 [ットカニ!]。

50. *Ouch*, かゆい; *Ich*, かいて

(1; 11.6) かゆいの意味で、T/Ouch! 「カ」 [イ] [イ] [シ] [ユシユ] の初出はかゆいの意味で *Ouch* (痛い) を使っている。

(2; 1.7) M: Mosquito bite? Where does it itch? T:/Itchy, itchy./ M:

Here? T: 「コ」コ「モ」コ「レ」モ「イ」タ「イ」 M: Tickle, tickle. (M & T 笑)

(2; 1.9) ① T: 「“Mommy” コ」コソコココシヨコ カ「イ」一カイテカイテカイ」 M: Let me see. Okay? T:/Hum./ ②蚊に刺さされると, T: /Itch Itch/とMに知らせる。

51. オシッコ (1; 11.8); しっこ, Wee-Wee, しし

(1; 11.8) M: おしっこない? Wee-wee? T: 「ナ」イナイ オ「一」コナ「イ」。

(2; 0.7) 給食中, T: 「オ」シ「ッ」コ」と保母に知らせトイレへ連れて行ってもらい濡らさずトイレで大成功。T嬉しそうにニコニコ。

(2; 0.9) 一時間おきぐらいに, M: しっこ, Wee-wee? と聞くと, T: 「シ」ッ」コ」とか, T/Wee-wee/と行って知らせる。おむつを一枚濡らしただけで, トイレで出来るようになる。Mに対しては, 日英の両方もしくはどちらかで知らせるが, 保母には日本語のみでトイレを知らせる。

(2; 2.9) M: Daddy's doing shee-shee, wee-wee. T: /Wee-wee./ 「シ」シー」 /Wee-wee./ M: する? T: 「ナ」ヌノシシ シ「ナ」イヨ」。

4. ま と め

喃語期を過ぎ言葉らしい言葉が発話されるようになった時点 (0; 8.9) から, 2語発話が徐々に増す2歳時 (2; 0) までの20カ月間を通して数多くの同義語が産出されたことを明らかにした。3歳時までも引き続き同義語が数多く産出されており, 相手や場所により, 両言語の使い分けが巧みになっている様子が伺える。明らかに日本語と英語の識別の能力を, この年齢でも十分に有していることが分かる。この年齢時の上記以外の言語的な特徴は, 二語発話が急増していることである。特に独り言や一人遊びの時の創造的なごっこ遊びの中で, 日英両語ともに長文の産出が多く聞かれるが, 日英の別がイントネーションや発音からも明確に分かる。一語一語は

奥田：バイリンガル児（日英両語同時習得）のコードの切り替えに関する縦断的実証研究
明確ではないが、一人二役の形での長文の産出が多く産出されている。T
は後々、絵を書きながら物語を即興で作って聞かせる遊びをしたり、実際に文字が書けるようになると、日英で物語を書くことを日課の遊びとして楽しむようになるが、その萌芽をこの時期にも伺い知ることができる。

英語が話されている環境に子供を放り込みさえすれば、子供は難なく英語が話せるようになり、英語を覚えてしまう力は大人の比ではないと一般に言われる。それはエピソードに過ぎないことを証明し、適切な指導の必要性を説いた最近の研究がある。米国に住む母語が英語以外の児童（日本人及び他言語話者）を対象に行われたその研究結果（内田，1997，p. 42）によると「幼児期段階では、一貫性のある文章を構成することはできず（中略）、文法能力は母語の文法の影響を受けて不完全であり、幼児初期から米国に移住した小学生であっても母語話者ほどの文章は産出できない」とのことである。Tの場合には、発音面のみならず英語の構文上にも日本語の影響は認められず、しかも、かなり複雑な英語構文も産出されている。これは、乳幼児からの一親一言語の入力、及び歌と本読みによるホール・ランゲージのアプローチとの関係によるものと思われるが、この件の分析に関しては、後日の課題としたい。

参 考 文 献

- 内田 伸子 (10, 1997), 「第二言語学習に及ぼす成熟的制約の影響 — 第二言語としての英語習得の過程 —」, 『日本語学』, 明治書院.
- 奥田 久子 (9, 1997), 「同時バイリンガルの言語別能力に関する縦断的実証研究 — 一語発話期におけるコードの切り替え及び同義語 —」, 『広島修大論集』, 第38巻, 第1号, 広島修道大学人文学会.
- Baker, Collin (1995), "The Assessment of Bilingual Children," pp. 353–358, in *Assessment in Education*, Vol. 2, No. 3, Journals Oxford ltd.
- Baker, Collin (1995), *Foundations of Bilingual Education and Bilingualism* (2nd Edition), Multilingual Matters.
- Baker, Collin (1998), *The International Journal of Bilingual Education and Bilingualism*, Cambridge University Press.

- Goodz, N. (1994), "Interactions between parents and children in bilingual families," pp. 61–81, in Jack C. Richards, Fred Genesee (Ed.) *Educating Second Language Children: The Whole child, the whole curriculum, the whole community*, Cambridge Language Education. Milroy, L. & P. Muysken (Eds.) (1995), *One speaker, two languages cross disciplinary perspectives on code switching*, Cambridge Univ. Press.
- Milroy, L. and P. Muysken (Eds.) (1995), *One speaker, two languages*, Cambridge Univ. Press.
- Quay, S. (1995), "The bilingual lexicon: implications for studies of language choice," *Journal of Child Language* 22, pp. 369–387, Cambridge Univ. Press.
- Taeschner, T. (1991), *A Developmental Psycholinguistic Approach to Secound Language Teaching*, Ablex Pub co.
- Volterra, V. & T. Taeschner (1978), "The acquisition and development of language by bilingual children," *Journal of Child Language* 5, pp. 311–326, Cambridge univ. Press.

Summary

Code-switching and cross-language equivalents: Evidence for language differentiation by a two–three year old Japanese-English Bilingual Child (1)

Hisako Okuda

Recently, with the increased popularity of international economic and cultural exchanges in Japan, the number of Japanese children living overseas and foreign children living in Japan has increased dramatically. Also families living in monolingual situations have recognized the importance of English and wish for their children to begin learning English at an early age. Consequently, the issue of bilingual education cannot be avoided even in Japan. This is an age in which a child's native language and culture should be taken into consideration when teaching Japanese as a foreign language, as well as a time for re-evaluating effective methods of achieving bilingualism. However, research in this area in Japan is extremely limited.

In attempting to understand and clarify bilingual children's learning processes, the author has undertaken an ongoing account of her efforts to raise a bilingual child (T) in Japan. This paper, in response to the interest in previous papers, she concentrates on: (1) by analysing the corpus accumulated from T during the period of one-word utterances (2; 0.1–3; 0), providing concrete evidence of English-Japanese equivalents in relation to the sociolinguistic contexts and (2) as an implication of the firm base, supporting the claim that bilingual children do have the ability to differentiate between two languages.

This research was supported by a 1997 Grant-in Aid for Exploratory Research from the Ministry of Education, Japan.